国際交流紹介

臨床検査学教育 Vol.15, No.2 p.88 ～ 90, 2023.

岡山大学における国際交流活動の紹介

廣　畑　　聡 *

キーワード　国際交流、コロナ禍、オンライン

I. 岡山大学医学部保健学科における国際交流事業

このたび、岡山大学医学部保健学科の国際交流活動について御紹介する機会をいただき、ありがとうございます。この 10 年間ほどの私どもの国際交流活動について振り返りたいと思います。

岡山大学医学部保健学科は、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻の 3 分野からなり、国際交流事業も互いに協働しながら実施しております。なかでも、看護学専攻を中心とした、タイ国シーマハサラカム看護大学との双方向性交流事業は約 15 年にわたって実施されてきた経緯があります。看護系の学生が主体ですが、放射線や検査の学生も現地渡航班に選出され、派遣されてきました。

さらに、岡山大学には、中国東北部の 6 大学との大学間交流事業である O-NECUS（Okayama University-North East China Universities platform, ‘Graduate’ Student Exchange Program）という全学プログラムがあり、保健学研究科も 2018 年より参画しています。これまでに 4 人の O-NECUS 短期留学生を大連医科大学より受入れました。また、post O-NECUS プログラム制度を整備して、博士後期課程大学院生として O-NECUS 留学経験者の受入を積極的に進め、これまでに 3 人の博士後期課程大学院生を受入れてきました。

学部生においては多職種連携教育であるチーム医療演習において、3 専攻の学生が混在した少人数グループ演習に海外班を 2016 年より導入しています。同演習科目は 1 年生の 1 ～ 2 学期に開講され、入学直後に実施した英語試験および希望調査アンケート結果に基づいて選抜された海外班の学生は、交流先の大学を短期訪問し、英語でプレゼンテーションを行うと同時に相手校の保健系学生と交流する機会を得ることができます。施設見学等も含め、一連の交流は英語で行うことを基本としております。

II. 岡山大学における国際交流事業の戦略と取り組み

岡山大学の保健学科では、国際交流事業を進めていくために学科内に国際ワーキンググループ（以下国際 WG）を設けており、毎月定例の会議を行っています。コロナ禍にあってもそれぞれの国際交流プログラムを進めていくことができたのは、国際 WG をはじめとする所属教員たちのバックアップによるものと考えております。さらに国際 WG では、部局における国際交流戦略や方針を決定しており、大学国際部への予算申請・獲得

* 岡山大学 大学院保健学研究科　hirohas@cc.okayama-u.ac.jp

を行ってホームページの英語化や中国語化を行ってきました。国際WGでは新たな国際交流協定書の締結への議論も進めています。今年度、保健学科が新たに協定を締結または更新する大学は、ウェイン州立大学（米国）とサン・カルロス大学（フィリピン）です。

III. 海外交流実績とコロナ禍での国際交流

上述したように、学部での派遣プログラムとして、チーム医療演習海外班では年間約40名の学生を台湾（長庚大学・高雄医学大学）・韓国（釜山カトリック大学）へと派遣してきました（**写真1～4**）。特に、2019年の釜山への派遣では地元の高校生も加わり、高大連携事業としても海外派遣を実施しました。

さらに、2019年にはJASSO（日本学生支援機構）海外留学支援制度（協定派遣）に採択された多職種連携協同海外派遣事業として「多分野医療系学生の共通経験を通した医療連携グローバル人材育成プログラム」を実施し、保健学科学生4名が6名の医学部生・歯学部生・薬学部生とともに二つのチームをつくりミャンマー・ベトナムを短期訪問しました。

また受入れプログラムは研究科（大学院）が中心となり、上述のO-NECUIS, post O-NECUSを行ってきました。O-NECUIS留学生の選考にあたっては2019年までは現地へ教員が渡航して面接試験を行うと同時に、岡山大学で行われている研究内容についてプレゼンテーションを行って現地学生へ岡山大学を紹介してきました（**写真5**）。他にも、中国からの私費留学生や、日中韓の三国間での大学交流事業であったキャンパスアジア事業（2011

写真1　2016年
チーム医療演習海外渡航班　帰国後報告会

写真2　2016年　台湾・高雄医学大学訪問

写真3　2017年　台湾・長庚大学訪問

写真4　2019年　韓国・釜山カトリック大学訪問

～2020）では、吉林大学・成均館大学からの留学生を4名受入れました。さらに2016年にはトルコ共和国から短期留学生2名を研究留学生として受入れを行いました。

しかしながら御存知の通り、コロナ感染拡大によってこれらの交流は大きな影響を受けて、2020～2022年の3年間は実渡航を途絶せざるを得ませんでした。O-NECUIS留学生やチーム医療演習海外班等、すべての交流事業が渡航中止となりました。さらに、岡山大学がUNCTAD（国連貿易開発会議）と共同で実施したアフリカ・ASEAN人材育成プログラム（短期研究者受入れプログラム）でもエチオピアとボツワナから若手女性研究者が渡日して保健学研究科で研究を実施する予定でしたがオンライン指導を余儀なくされました。

写真5　2019年
中国・大連医科大学での岡山大学留学説明会

一方で、チーム医療演習海外班やシーマハサラカム看護大学との交流は、ZoomやTeamsを使ったオンラインによる学生・教員間の交流を継続してきました。なかでも2022年には、台湾・長庚大学に加えて新たにインドネシア・ハサヌディン大学と交流する班を形成し、岡山大学の学生が現地学生とオンラインで英語を駆使して協働でディスカッションし（**写真6**）、台湾あるいはインドネシアの現地教員から指導を受けるいわゆるCOIL（Collaborative Online International Learning）型教育等、実渡航では成し得なかった貴重な国際体験を得ることもできました。

IV．今年度の活動および、国際交流の将来展望

今年度は5月8日にコロナ感染症が5類になったこともあり、実渡航の動きが広まっています。具体的には、シーマハサラカム看護大学への派遣を9月に予定しております。また、チーム医療演習海外班では台湾・長庚大学、韓国・釜山カトリック看護大学、インドネシア・ハサヌディン大学へ合計43名の学生を派遣する予定で、現在準備を進めています。コロナ禍でつちかわれたオンライン会議も現地教員との協働において効果的に併用しつつ、学生には実渡航ならではの国際的な視野の獲得と達成感・充実感ならびに経験値の上昇が期待されます。今後は新たな協定校との新規プログラム立ち上げも視野にいれつつ、新カリキュラムの中で効果的な海外留学プログラムを提供してきたいと考えています。

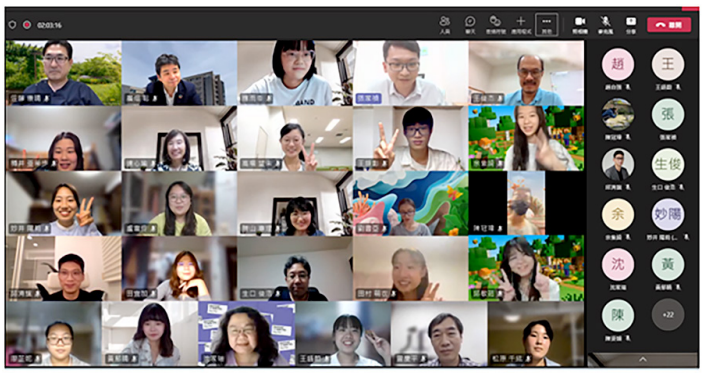

写真6　2022年　オンラインで行われたチーム医療演習台湾班発表会